

おかざき 国語

題字

国語部長

牧野 守先生



岡崎市現職研修委員会
国語・書写部

令和5年2月6日(月)

第3号

だから文学がある。だから、我々がいる。

現職研修委員会国語部長

丹羽 郁人

運動場に吹く風も、教室に差し込む光も、あたたかく穏やかさを感じるようになった。豊かな時代である。希望に満ちた時代である。私たちは「平和」を噛みしめる。

学校では、子供たちの歓声と笑顔があふれる。わくわくした気持ちで登校できる学校でありたいな。ぼかぼかした心で下校できる学校でありたいな。子供の成長を、我が事のように喜ぶ先生方と共に、今日も子供たちは、物語を紡ぐ。それは、未来へと続く希望の物語に違いない。

毎年、夏の到来と共に、中学校一年生は、物語『大人になれなかった弟たちに……』を読む。戦時下、弟の唯一の食べ物であるミルクを、「僕」は盗み飲みをしてしまう。その弟は栄養失調で、大人になれずに亡くなってしまふのだ。作者の米倉斉加年さんは、実体験をもとに、この作品を悔恨の思いで書き上げた。この作品を、目の前の子供たちに、どのように受け取らせるか。授業者の責任は重い。

かつて矢作中学校で展開された太田秀実教諭の授業を思い出す。太田教諭は、物語『大人になれなかった弟たちに……』に、真正面から取り組んだ。授業は『僕』がどんな思いでミルクを盗み飲みしたか。という学習課題で展開された。子供たちは、「僕」の気持ちに迫ろうと、何度も、何度も、懸命に叙述に戻った。

A君は、「僕」がミルクを何回も盗み飲みする事実を読み取り、『僕』がミルクを盗み飲みしていたのに、母親は気付いていたのではないか。」と発言した。ここで、太田教諭はこう切り返した。「それで、お母さんは『僕』を叱ったかな。」子供たちが、「僕」の視点だけでなく、「母」の視点を得た、見事な問い返しであった。

子供たちは、「母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと——。」という叙述に戻る。そして「——」に着目し、食べたらだめだと言いつついない「母」の葛藤を読み取っていく。

新たな視点から、文章を読み直す。同じ言葉から、同じ叙述から、新たな解釈が生まれる。これこそ、子供たちが、読みを深めた姿であった。

豊かな時代である。そして、豊かな時代に生きる子供たちである。そんな子供たちに、本当のひもじさも、大切な人を亡くす悲しみ、怒り、憤り、無念さも、完全には理解できない。ただ、文学を通して、その気持ちには、思いには迫ることはできる。だから、文学があり、だから、国語の授業があるのだ。だから、我々国語教師がいるのだ。

こんな授業がしたい。それは、我々国語教師の使命であり、ライフワークであり、そしてやりがいであるはずだ。

文学は、人の美しさも、楽しさもそして弱さも照らしてくれる。命の尊さも、素晴らしさも、そして儂さも照らしてくれる。意志の力や夢の力も照らしてくれる。だから、文学がある。そして、だから、我々国語教師がいる。

国語教師になって、よかった。

第72次教育研究愛知県集会

十月十五日（土）に、第七十二次教育研究愛知県集会在、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて開催されました。

岡崎市教育研究大会のレポートや討論などをもとに、次の先生方に正会員として参加していただきました。

| | |
|-------------|---------|
| ●文学その他 | |
| 矢作東小 | 原山 友香先生 |
| 六ツ美中 | 石田 勝重先生 |
| ●作文その他 | |
| 六ツ美西部小 | 矢田 真衣先生 |
| 矢作北中 | 永田 真夕先生 |
| ●能力・発達・学習評価 | |
| 翔南中 | 次井 祥太先生 |

子供の実態に応じて、「文学」では読む活動を通して何のために、どのような力をつけさせるべきか、「作文」では文字言語・音声言語の特徴を生かして、どのような力を育てていくかについて、活発な討論が展開されました。

来年度の岡崎市教育研究大会においても、これらの視点で議論を深めていきたいと思います。

形成の会 岡崎・幸田例会

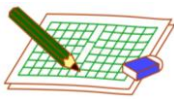
一月十四日（土）に総合学習センターにて「形成の会 岡崎・幸田例会」が、四十二名もの参加者を得て開催されました。

今年度の市小中学生作文コンクール最優秀賞を獲得した生活作文「本当の魔法の言葉」（葵中・小野花凜）を題材に、次井祥太先生（翔南中）が「心・姿・力」の観点で分析・評価して、提案しました。

「心」は対象のとらえかた、「姿」は作品のしあげかた、「力」は影響のせまりかたを表し、AとC段階で評価します。A・B段階を経て、C段階が最も高い段階となります。三観点それぞれの評価の妥当性や、C段階に迫るための指導等に関する議論が活発に交わされました。

形成の会会長、渡邊宏光先生（田原市立赤羽小）からは、作文を書く上で大切にすべき四つのポイントについて、「指導がありました。」

- ① よく見ること
- ② 具体的であること
- ③ ありのまま書くこと
- ④ 順序よく書くこと



これらのポイントを押さえて、日頃から「書くこと」に関する指導を積み重ねていきたいと思います。

岡崎市小中学校書き初め展

一月二十一日（土）、二十二日（日）に岡崎市美術館において、「第六十六回 岡崎市小中学校書き初め展」が開催されました。

市内小中学校と聾学校から選出された、優れた作品が展示されました。また、鉛筆を正しく持つて文字を書こうとする意識や基礎的な書写技能を高めるために取り組んだ「硬筆の部」（小学校三年生から中学校三年生）の優秀作品も展示されました。二日間で約六千人の方々に来場いただきました。

作品を真剣な眼差しで見つめる、来場した子供たちの姿からは、自分の書に生かそうとする、前向きな気持ちを感じられました。今後とも、子供たちが硬筆や毛筆の書写技能を高めていくことができよう、指導していきましょう。



活動を支えてくださり
ありがとうございました

今年度の国語・書写部の活動は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、時期に応じて適宜オンライン開催を行いながら、様々な活動・研修を行うことができました。

- ・第一回国語・書写主任会
↓オンライン開催
- ・市中学生の主張コンクール
↓各校で実施
- ・教育研究集会
↓実施
- ・授業力・教師力アップセミナー
「基礎編」「応用編」
↓実施
- ・市小中学生作文コンクール
↓実施
- ・市書き初め展
↓実施
- ・さわらびの会
↓全二回開催
- ・形成の会岡崎幸田例会
↓開催
- ・第三回国語・書写主任会
↓実施

自主研修サークル「さわらびの会」や「形成の会」では、多くの先生が自主的に参加していました。力量向上につなげようと積極的に議論に取り組み、充実した学びの機会とすることができました。

国語主任、書写主任の先生方には働きかけや取りまとめを通して、国語・書写部の活動を支えてくださり、ありがとうございました。